



# 洋上アルプス

No.276 平成30年3月5日

発行  
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります

[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



## 第2回世界遺産地域科学委員会・ヤクシカWGを開催 2月16～17日

科学委員会は、世界遺産に登録された屋久島の自然環境を保全するにあたって講じられる科学的なデータに基づいた順応的管理に必要な助言を頂くため、毎年2回程度開催されており、今回は鹿児島県市町村自治会館（鹿児島市）において開催されました。

九州地方環境事務所及び九州森林管理局より、平成29年度モニタリング調査等の実施状況の報告と平成30年度の取り組み事項について提案があり、委員からは効果的なモニタリング手法等について個々の具体的な指導・助言がなされました。

中でも、「花之江河」や「小花之江河」の高層湿原における保全対策については、これまでの議論を踏まえ、しっかりモニタリングしていくための体制を整え、関係する分野の専門家の意見等も聞き、課題と対応策の検討をしていくべきとの助言がありました。

また、前日に開催された平成29年度第2回特定鳥獣保護管理検討委員会及び屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカWG合同会議の概要として、森林生態系等に被害を及ぼしているヤクシカについて、最近の生息状況調査を見ると減少傾向にあること、駆除の効果や自然死による変動などあって、管理目標とする頭数まで減少しているものではないが、島全体では減少しているのではないかとの報告がありました。



科学委員会会議の様子

## 官民協働で松くい虫駆除 2月28日

屋久島森林管理署及び当センターは、屋久島ヤクタネゴヨウ調査隊(手塚賢至代表)とヤクタネゴヨウ自生地の近くで発生している波砂岳国有林内のクロマツの松くい虫被害木の駆除作業を官民協働で行いました。

当日は、あいにく天候不順であったため安全を考慮して作業しやすい林道脇の被害木を、職員15人、調査隊から10人の計25人が参加して、伐倒・玉切りして軽トラック4台に乗せて安房にある窯元に燃料用として運びまし



作業を終えた参加者

た。今回の駆除作業は数年ぶりに実施されましたが、調査隊からは「今回の取組は官民協働の新たな第一歩となった」、「被害木が窯元で活用され無駄のない利用になった」などの意見が聞かれ、今後とも更に連携を強化しながら官民協働で保全管理に努めていくこととしました。

<p><b>福岡県久山町からの視察受入</b></p>  <p style="text-align: right;"><b>H29. 1. 24</b></p> <p>福岡県久山町の皆さまが、当センターを訪問し、屋久島の多様な自然や動植物の特徴や各種調査について、職員より講話を受けました。</p>	<p><b>春期インターンシップを実施</b></p>  <p style="text-align: right;"><b>H29. 2. 20~24</b></p> <p>農林水産省就業体験実習の一環で、大学院1年生の川崎さんと大学2年生の坂井さんが、現場業務を中心に職場体験をしました。</p>	<p><b>三代杉に木製デッキを設置</b></p>  <p style="text-align: right;"><b>H29. 3. 1</b></p> <p>縄文杉登山道沿いにある三代杉近くに、根系保護のための木製デッキを設置しました。また、三代杉の樹勢回復措置として施肥を行いました。</p>
<p><b>外来種アブラギリ 職員で駆除作業</b></p>  <p style="text-align: right;"><b>H29. 2. 24</b></p> <p>屋久島森林管理署及び当センター職員で、荒川登山口からの登山道沿いと小杉谷集落跡地に侵入しているアブラギリを駆除しました。</p>	<p><b>縄文杉周辺マナー指導</b></p>  <p style="text-align: right;"><b>H29. 4. 29~5. 7</b></p> <p>例年行っている連休中の縄文杉周辺において、登山客の皆さまが混雑しないよう、一方通行の呼びかけや誘導等を行いました。</p>	<p><b>地域林政対談in屋久島を開催</b></p>  <p style="text-align: right;"><b>H29. 5. 4</b></p> <p>島内の行政関係者と九州森林管理局間で林政の課題共有を行い、災害発生時の支え合い、森づくりのための協力等について協定を締結しました。</p>
<p><b>林産業の成長発展へ連携強化</b></p>  <p style="text-align: right;"><b>H29. 6. 21</b></p> <p>地域林政対談を受け、「地域の安全確保に向けた森林情報の共有及び長期的な森林の育成に関する協定」に係る調印式を行いました。</p>	<p><b>シカと森林のカード屋久島版 完成</b></p>  <p style="text-align: right;"><b>H29. 7. 1</b></p> <p>屋久島の自然・動植物等の生態を盛り込んだ「シカと森林のカード」を作成しました。現在、中学校等の森林教室などで活用しています。</p>	<p><b>外来種、ヤクシカについて講義</b></p>  <p style="text-align: right;"><b>H29. 9. 1</b></p> <p>安房中学校の1年生を対象に森林教室を行いました。自然を守ることを基本に考えながら、ゲームを楽しむとともに生態系への理解を深めました。</p>
<p><b>高校生が毎木調査を体験</b></p>  <p style="text-align: right;"><b>H29. 10. 7</b></p> <p>大分県立大分舞鶴高等学校の理数科1年生14名が、研修の一環として屋久島を訪れ、毎木調査の体験と、森林生態系について、当センターで講話を受けました。</p>	<p><b>アサヒビール協定式/ボランティア</b></p>  <p style="text-align: right;"><b>H29. 10. 13~14</b></p> <p>アサヒビール(株)と地元関係機関の皆さんで、ヤクスギランドの清掃ボランティアを行いました。今年で10回目となります。小雨での作業、お疲れさまでした！</p>	<p><b>縄文杉ケーブリング設備撤去</b></p>  <p style="text-align: right;"><b>H29. 11. 18~19</b></p> <p>新設デッキを含む一連の工事が完了したため、縄文杉大枝のケーブルを撤去しました。今後においても、皆様と一緒に保全整備に努めていきます。</p>

## ～屋久杉と共に～ 小杉谷と森林軌道 (第3回)

佐々 彰聰 (屋久杉自然館 館長)

### ===== 電源開発への寄与 =====

現在、安房川には3箇所の水力発電所が稼働している。急峻な地形に日本有数の降水量を誇り、水力資源を利用するには絶好の場所である。この水力資源の開発、それにより生産された電力を利用した工業経営を目的として設立されたのが屋久島電気株式会社である。この電源開発は、1953(昭和28)年に千尋滝発電所が建設され、続いて1960(昭和35)年に安房川第一発電所、1963(昭和38)年尾立ダム(荒川ダム)が完成した。実は、この時の建設資材運搬のために安房森林軌道が利用されている。建設資材運搬は24時間体制で続けられ、保線員も区間毎に配置された。森林資源運材用で3台、建設資材運搬用で4～5台の機関車が単線軌道を往復した。当時安房門衛一小杉谷間には、途中5箇所の複線箇所及び水の補給箇所があり連絡所員が常駐した。千頭川(6.4キロ地点)の複線には、“戸川のおばちゃん”が上り(機関車)下り(トロ・モーターカー)の通行上の安全確保のため区間を手書きし、色分けされた「タブレット」を交換しており、衝突はなかったようだ。

### ===== 小杉谷事業所の特別休暇 =====

小杉谷・石塚集落での山神祭は、正月、5月、9月に行われ、特に9月は一番大きな祭りだった。その日は仕事も休みであり、学校の運動会とともに集落民総出で行う数少ない行事の一つであった。安房から神官がやってきて神事を執り行っていた。当時事業所では、このような祭りの休日は「作業休日」という取扱で処理され、よくこの言葉を耳にした。月に2日程度(日曜日以外)あり、「作休」と呼ばれていた。

このようにして、島の名所であった小杉谷事業所は長い歴史を閉じた。

厳しい自然の小杉谷を拠点として森林軌道が開設され、改良型の「堀田式ブレーキ」の完成や米国製の機関車、チェーンソーの導入や集材機などの機械化により巨大な屋久杉の生産を果たしてきた。また、そこにはかつて540名もの人たちが暮らしていた。ここで生まれ育ち学んだ多くの人々。故郷を失うような気持ちだった。昭和44年5月10日トロッコ運材は終了し、半世紀にわたる勤めにピリオドを打った。運んだ立木約40万立方メートル。トロッコで延べ13万台、黙々と杉を運び続けた。

屋久島の森林軌道は、戦時、戦後復興期、高度成長期の木材需要に応じて日本の一時代を支えたが、時代の趨勢により当初の役割を終えた。国有林の経営という直接的な面に果たす役割だけでなく、屋久島開発と地域の経済発展に大きく貢献した功績があったことを忘れてはならない。



最終便が下る(10時30分 貯木場着)

### ===== 小杉谷よ、長い間ご苦労さま =====

小杉谷、石塚集落は、山で生計を立てた男達とその家族が山に生きたあかしの場所です。冬には、数十センチを超える雪が積もり、チェーンソーを担ぎ命懸けで屋久杉を伐採し、トロッコを使って下ろす、はだか馬に乗った大人たち。そんな厳しい環境の中でも人々は明るく、楽しく、力強く生きていました。安房とトロッコでつながっただけの山中での生活を送った人々、その一人として、それほど小杉谷は価値があり、意義があり、夢があるのです。(おわり)



## 高層湿原における植生分布状況等に関する調査（平成27年度）

### 淡水産貝類二枚貝のハバメシジミの生息状況調査

小花之江河においては、表に示すように平成22年の調査では、コドラート調査で2個体/0.5㎡、概況(周辺)調査で11個体の合計13個体のハバメシジミが確認されていた。今回の調査の結果、コドラート調査で3個体/0.5㎡、概況調査で19個体の合計22個体のハバメシジミが確認された。

表. ハバメシジミ調査結果概要

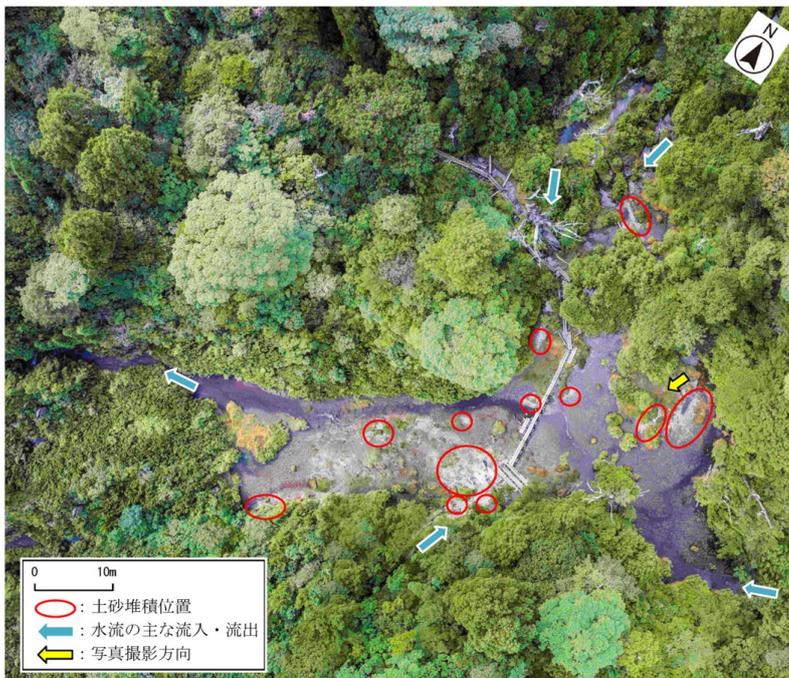
		H18	H22	H27
花之江河	コドラート調査	3個体/0.5㎡	3個体/0.5㎡	確認なし
	概況調査	10個体	12個体	確認なし
小花之江河	コドラート調査	2個体/0.5㎡	2個体/0.5㎡	3個体/0.5㎡
	概況調査	9個体	11個体	19個体



写真. 小花之江河で確認されたハバメシジミ

### 小型無人撮影機（ドローン）撮影結果（小花之江河）

高層湿原の環境を、湿原内に立ち入ることなく把握するため、小型無人撮影機(ドローン)を用いた撮影を行った。図中の赤円で示した白い部分は土砂の堆積箇所である。また主な流入・流出水路を矢印で示す。



## 巨樹・著名木 屋久杉 愛子杉

森林軌道の荒川登山口と小杉谷の間は屋久杉の巨木が多い。愛子杉は急斜面に立ち、下方が深い谷になっているため、風の影響を強く受けて肌もつやがなく、枝葉も少ない。

周辺の林相も貧弱で、かなり厳しい環境にある。仁王杉と同様に不安定な地盤に立っており全体に傾いている。

軌道下の急傾斜地にあって1本だけ抜き出ている。日当たりはいいが幹は乾燥している。着生する木本類は、サクラツツジ、ゴトウズル、アクシバモドキ等で、あまり多くない。

- 樹高：26.2m
- 標高：620m
- 胸高周囲：5.7m
- 場所：安房森林軌道沿い
- 樹齢：不明
- 参考文献：屋久杉巨樹・著名木 改訂版(H11.7)

